

大正時代末頃、皇室林野局の注意看板

「山火事防止」  
 どれだけ成長した森林であっても燃えてしまえば失われてしまいますので、山火事は恐ろしいものです。  
 とは言え、広大な面積の森林に対して山火事防止のために人間ができる対策は限られています。まず何よりも火を出さないことが第一になりますので、煙草や焚き火の不始末への注意喚起は昔から繰り返し行われてきました。

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

シリーズ

秘蔵写真

# 今は昔の林業

## 第22回

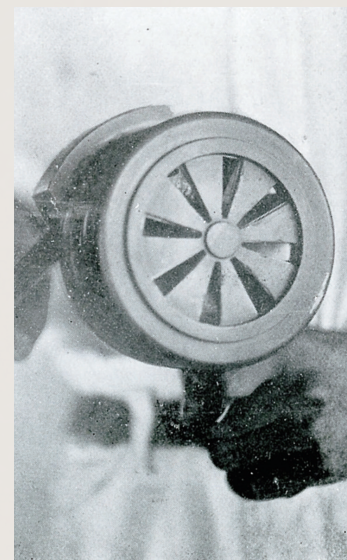
中部森林管理局技術普及課

井上 日呂登



昭和30年頃、上田営林署（現在の東信森林管理署）管内の山で切られた防火線

山火事が発生した際の延焼を防ぐために、ある程度の幅の森林を切り開く「防火線」が設けられることもありましたが、森林面積が減ってしまうこともあり、それ程頻繁に作られるものではありませんでした。  
 万が一、山火事になってしまった時のため



昭和初期の皇室林野局の資料より、  
 (左) 有線の携帯用電話機と、(右) 携帯用手动サイレン

ここでは紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。  
 当サイトへは、コードを讀み込んでください。

戦後、小型の消火ポンプや背負式の「消火水のうち」も登場しますが、これらは初期消火や残火処理に主に使われるものでした。

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。  
 当サイトへは、コードを讀み込んでください。

